



事例紹介

協発工業株式会社



愛知県岡崎市の協発工業は社是の「和」を経営の根幹とし地域に貢献します。

脱炭素経営の先取りで選ばれる企業に

CN取組の内容

- 輸送用機器関連部門では国内初となる
中小企業版SBT認定

2021年に、2018年度比で
2030年の排出量を50%削減
する目標を設定し、輸送機
器関連部門では国内で初め
てSBT認定※1を取得。



国内初

- CNロードマップの作成

工場の省エネ化・再エネ化など、いつ・どのくらい
(量)削減するのか具体策を定めた、ロードマップを
策定し、対外的な実効性を明示。

- 社風の醸成

生産改善活動を金額ベースだけでなく、CO2換算で
も数値化。日々の活動に根付かせることで、サステ
ナビリティ経営の社運を醸成。

ここがポイント

脱炭素経営による生き残り戦略

多くの大企業がCDPに賛同する中で、他業界での大企業のスコア3対応と
して取引先に要請している状況を目の当たりにし、今後自社の業界でもCO2
削減は必ず取引先からの優先順位に繋がると判断。正確な排出量を算定し、
CDPに情報を開示。その後、国の支援事業を利用してSBT認定を取得した。

SBT認定取得による
信頼性獲得

既存顧客との
取引維持

+ 脱炭素の取組経験を活かした
新規顧客獲得

炭素税を想定した
価格戦略の展開

競合企業との
差別化

ロードマップに基づく排出量削減

2021年に工場の統合によるエネルギー使用の効率化を図り2.5tの排出量削減、
2022年にコンプレッサの吐出圧低減により0.6tの排出量削減を実施。
2030年50%削減に向け計画的に作業の効率化や設備投資を実施予定。

※1) SBT…Science Based Targetsの頭文字を取った言葉。パリ協定達成のために企業が設定する温室効果ガス削減目標。